



発行 公益社団法人
武蔵野市シルバー人材センター
編集 広報編集委員会
武蔵野市西久保 1-6-27
多摩信用金庫武蔵野支店 4 階
電話 0422-55-1231 (代)
URL <https://www.musashino-sc.or.jp/>

224(春)号 もくじ

- 加藤之義前会長を偲ぶ…………… 1
会報「絆」の歩み
- 令和4年度のスタートにあたって…………… 2
突撃レポート 現場へGO！…………… 2～3
リレー・エッセイ…………… 3
- SC NOW 就業開拓委員会…………… 4
- 私のふるさと…………… 5
- ひろば 新入会員紹介 編集後記…………… 6

加藤之義前会長を偲ぶ



昨年11月にかねてより病氣静養中の加藤（前）会長がご逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表します。生前ゆかりのあった方々と共にご活躍の足跡を辿りました。

人が好き、おしゃべりも大好き、そして何より大好きだったのは、カラオケ。交流会の中にもカラオケ・グループがあり、約13名で楽しんでいました。また、リーダーとしても、いつも気配りを欠かしませんでした。

センターに入会されてから18年、理事として11年、中でも代表理事（会長）の任期は3期6年で5年余を精力的に務められました。晩年は、「入会して良かった」「毎日が楽しくなった」と会員に言われるように「魅力

ある、活力あふれるセンター」を目指し、会報誌「絆」に何度も何度も、熱く改革の意志を語ってこられました。改革の道筋をつけるため、寝る間を惜しみ、病を押し、文字通り命を削りながら、邁進してこられました。そして、「理事の意識改革が必要です」「理事は理事らしくあってほしい」が口癖でした。素晴らしいお言葉ですね。

ようやく改革への反発もおさまり、今日の体勢が整って来て、「いざ、これから」という時に病魔に侵され、志半ばに倒れたことは、さぞやご無念であったらうとお察しいたします。

加藤之義さま、お疲れさまでした。

そして、ありがとうございました。

合掌

広報編集委員会副委員長 加藤伴子

会報「絆」の歩み

会報「絆」は、号数を重ねて今回で224号の発行となりました。昭和53年1月にシルバー人材センターは前身「武蔵野市高齢者事業団」として設立され、8ヶ月後の9月に表裏2ページ印刷だけの「事業団だより」を発行しました。以来、隔月に発行し、25年半を経て、69号より名称を会員公募によって「きずな」に改めました。

内容も「縦書き」から「横書き」に、編集は「会報等編集委員会」が「広報編集委員会」へ、名称「きずな」も漢字1文字「絆」に変わりました。150号では、「紙面を飾ったご近所の著名人」として文化勲章受章彫刻家の北村西望翁。作家の丹羽文雄氏。元前進座代表の河原崎国太郎氏。落語家の春風亭柳昇師匠。

元東海大学総長の松前重義氏。（この方々は故人となりました）漫画家の水森亜土さん。皆様のご自宅を訪問した際は、快くインタビューに応じて下さいましたと記されています。今では、想像出来ない取材ですね。これまで記念誌として「設立15周年記念誌 銀の道」、「設立20周年記念誌 きずな」、「設立30周年記念誌 絆」と「設立40周年記念誌 設立40年のあゆみ」を発行してきました。

今後、広報編集委員会は会報「絆」の発行を年4回から、2回に変更し、シルバー人材センターのPR活動にも注力していきたいと思えます。

応援をよろしくお願い申し上げます。

令和4年度のスタートにあたって

会長 安達 勝

会員の皆さま、日々就業ならびに地域活動にご精励いただき、ありがとうございます。

昨年度は引き続き新型コロナウイルス感染拡大による影響、又、前会長のご逝去など3名の理事欠員が発生し、当センターの運営は満足出来るものではありませんでした。

令和4年度は、新理事が3名選任されることになるため、「シルバー人材センターの理念や目的を再確認し、既成概念にとらわれない新しい考え方を反映する運営が出来るはず」とポジティブに捉え、より良いシルバー人材センターになる事を目指し、努力して行きたいと考えております。

以下に3月24日の理事会において承認されました令和4年度の事業計画の概要を報告いたします。

1. 基本方針

「魅力あるシルバー人材センターを目指して～元気に、明るく、楽しく～」

第4期中期目標で掲げたスローガンを基本方針

とし、三大目標（魅力あるセンターづくり、就業先拡大、会員の増強）の達成に向けた事業を推進する。

2. 重点取組

「地区活動の強化」（地区の活性化）

昨年度新たに設置した12名の「地区長」とブロック理事が連携を図りながら「地区活動の強化」（地区の活性化）に向け、種々の取り組みを進め、魅力あるシルバー人材センターを目指す。

3. 数値目標

新型コロナウイルス感染拡大の影響などを考慮し、次のとおり設定する。

＜令和4年度数値目標＞

会員数 1,150名

契約額 4億円（派遣を除く）

就業率 83%

今後共、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

突撃レポート 現場へ

GO!

私の就業体験記 「市報配布」の巻

市報配布業務は平成19年にスタートした武蔵野市からの委託事業です。4月で16年目になります。市内全域86,000部を毎月1日・15日に260名の会員が配布を担当しています。

今回、現場へGOの取材は、まん延防止等重点措置が発出中とあって、電話によるインタビューとなりました。

長年活動してきた3名のみなさんにお話を伺いました。



高田昭さん



杉浦真吉さん



野村いづみさん

——活動をはじめられたキッカケについてお聞かせください。

高田さん 15年前、この委託事業が始まった時、配布方法の体制作りから関わってきました。今は配布担当を卒業して、地区の拠点管理をしています。市内23ヶ所に専用保管庫が置いてある拠点があります。

杉浦さん、野村さん センターから欠員が出た時に募集があつてははじめました。

——活動の様子をお聞かせください。

杉浦さん 健康のため、いい運動の機会とばかりに市報を詰めたリュックを背負って、効率を考えて少量ずつ手元のバッグに移しながら配布しています。

野村さん 私は440部を自転車に積んで配っています。どのルートで配ると効率がいいかを考えながら配っています。

高田さん 担当は関前コミセン分館の保管庫です。拠点管理の仕事は、納品の状況、配布状況を確認し随時センターへ報告することです。

——大変なことや苦勞されていることはありますか？

野村さん 天候が心配ですね。配布日は3日ほどありますが、他の仕事の予定を調整して天候に合わせてながらも。ポストが満杯な時も困ります。

高田さん メンバーのみなさんがしっかり職務を



リレー・エッセイ

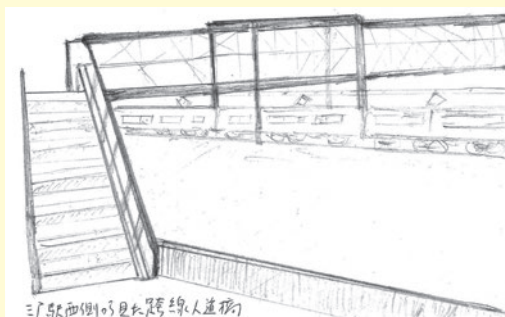
跨線橋を想う

東町 伏野 嘉高

最近、武蔵野市と三鷹市でホットな話題になっていることがあります。

それは、三鷹駅西側にある中央線を挟んで架けられている^{こせんきょう}跨線橋のことで

す。
この跨線橋が建設されたのは1929年（昭和4年）で、長さ90mの鉄製で、両市民の生活になくてはならない橋となっています。



三鷹駅西側の見え方 跨線橋（伏野画）

今や耐用基準年数を超えて老朽化が激しく解体か保存かが話題になっているところです。最近、一部保存し、あと解体との話になって

きています。もう一つの話題は、この橋は執筆のつかれを癒すため太宰治がよく訪れた場所で、今でもファンの人

が太宰を懐しんで訪れます。

私も近年、多摩方面へ出掛けた帰りにこの道を通り、懐かしんでいる一人です。

市内にこうした有名な建造物が多数あり、市政を鑑み、市民への寄付を呼びかけて、後世のためにこうしたものを残すことを強く希望する一人です。

（参考資料 読売新聞朝刊2月11日付け）

担当してくれるので心配なく順調です。

杉浦さん 市報以外の公報のチラシが増えると重くなり保管庫との往復だけでも大変で、やっぱり雨の時はきついですね。

——この仕事で気をつけていることはどんなことでしょうか？

高田さん 人に会ったときに親切・丁寧を心掛けています。

杉浦さん 玄関先での声掛けや「市報です！」との挨拶を心掛けています。無言でいたら不審者と思われるかもしれませんからね。また、安全用に必ず薄手の手袋もしています。

野村さん 大事なお知らせなので、読んでいただけるようにポストへ入れる時の差し込み具合にも気を配っています。

はみだし具合にはちょっとしたコツがあります。



——嬉しいことや、やりがいは？

野村さん 「ありがとう」や、SCのメンバーから「私もシルバーですよ、頑張ってください！」という声掛けをいただくことがあって、とても励みになります。

高田さん 社会奉仕の一環と思っていますが、健康・

体力増進と、脳トレにとっても役立っています。

杉浦さん 低学年の小学生からのねぎらいの声掛けは嬉しいですね。毎月2回、定点観察のように、1年間の菊栽培の様子を観察できるお宅があって、植物好きなのでこれも密かな楽しみの一つです。

みなさん、元気であるためにも、これからも頑張りたいとおっしゃっていたのが印象的でした。

長きにわたる活動ですが、市報配布の15年継続功労者は35名に上るそうです。

項目	内容
仕事の内容	武蔵野市報、公報などの配布
仕事の場所	受け持ち担当地区 平均340部/1地区
仕事時間	毎月1日・15日の前2～3日間
就業の人数	260名
配分金	市報1部につき12.5円(配布物により異なります)
事務局担当	谷口

病気やケガ時のピンチヒッターや、引退者が出た時のメンバーも併せて募集中とのことでした。



なまづた
最高齢配布員の鯉田昭子さん

みんなの笑顔が卒寿の妙薬。いただいた元気を分け合うことで、地域づくりに貢献したいと思っています。



コロナ禍でも災い転じて福となせ！

就業開拓
委員会

3年に及ぶコロナ禍で、新しい仕事探しに励んでいる就業開拓委員会の小野千鶴子委員長に、最近の活動の様子をお聞きました。

——就業開拓委員会は、どのような活動を受け持つ委員会ですか？

現在は2名の理事と公募で参加した3名のSC一般会員で、新規の就業先を探す活動をしています。月に1回の定例会議により、会員の就業ニーズの掘り起こしや、新規の仕事探しをすることが委員会の仕事です。

——コロナ禍になって、これまでと違って就業開拓のあり方がとても大変だとお聞きました。

コロナ禍で駐輪場管理、施設管理などを含め多くの仕事が一時期中止となり、事業の維持や拡大に限界も感じ苦戦しています。併せて、リサイクルセンターの閉鎖やコロナ禍での家事援助の受注数の減少などもあります。

そのような中、今後どのような形で就業開拓を進めていくかについて、今期は東京都のシルバー人材センター連合から、講師をお呼びして「就業開拓」の勉強会を開催しました。

——どのような勉強会をしたのですか？

他地域のシルバー人材センターの「就業開拓」での成功例を研究しました。参考にしやすいように武蔵野市に似た例をたくさん紹介いただきました。その中で、まず「地域特性の理解」の絞り込みが大事であるというアドバイスをうけ、武蔵野市の特性を委員会で検証したり、当会員の「強みと弱み」を分析したりと、就業開拓の方向性を明らかにしてきました。これらは講師から紹介いただいた就業開拓分析用のワークシートがいっぱいになるほど委員会で意見交換をしました。

2ヶ月ほどかけて熟考し、「コロナ禍でも災い転じて福となせ！」と、従来の大規模企業に就業先を頼るものではなく、どんな細かい仕事のニーズにも積極的に請け負って、SCをアピールしていこうという方向性をまとめました。そして今期は会員の人気希望の職種でもある事務系の仕事を多く得られるように、地域の商店街や小規模事業所への働きかけをしていくことにしました。

——具体的には、どのようなことをしたのですか？

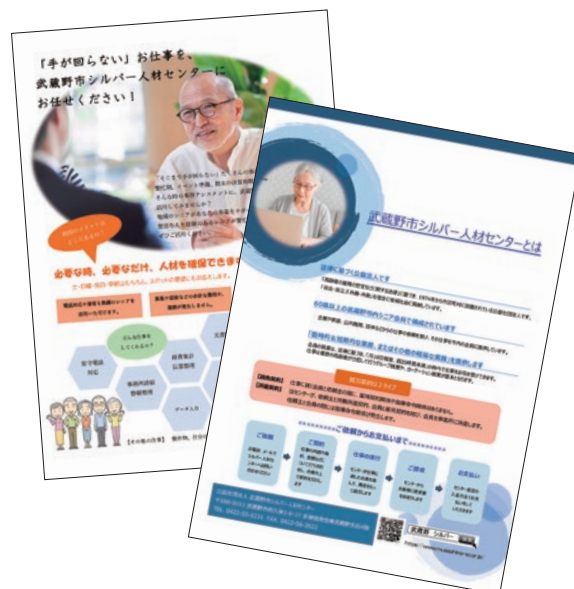
事務系の仕事のニーズを掘り起こすために、企業向けに当センターのアピール・リーフレットを作成しました。これを携えて武蔵野商工会議所、武蔵野市勤労者互助会へ伺い、小規模事業所へのアプローチの方法を相談しました。これはなかなか良い手ごたえをつかめました。今後は地域の小規模事業所向けに広告宣伝を努めていくようにしたいと思っています。これには、会員の事務系希望者の詳しいスキルの洗い出しも必要になるでしょうから、研修委員会の協力や、広報編集委員会とも宣伝のために連携していかなくてはと考えています。

——今後はどのような課題がありますか？

高齢になって今までどおりの就業が難しい未就業の会員に向けて、軽作業（封入など）の拡充も今後の課題です。またコロナ禍の難しい状況において、会員の皆さんからも、「こんな仕事はどうだろうか?」、「あんな働き方はどうだろうか?」などシルバー世代の働き方や新しい仕事についてのご意見・情報もぜひお願いしたいと思います。

今後も委員一同、頑張ってまいりますので、よろしくお願いします。

(取材・編集：YH)



私のふるさと

—— 第30回 愛知県名古屋市 —— 八幡町 加藤 伴子 会員



今、社会は変わりつつある。3年来のコロナ禍で世界中が否応なく変わっていく。日本史上では激動の戦国時代、政経の中心が都から日本列島のド真ん中へ移った。群雄割拠の中から抜け出し「三英傑」と言われる信長・秀吉・家康は奇しくも揃って尾張に関わっている。

★今回は徳川家のお膝元、岡崎ご出身で名古屋市に長らくお住まいだった加藤伴子さんにお話をいただきました。現在、広報編集委員会を率いてくださっています。ここにも変化の波が押し寄せ、広報誌「絆」

の発行も見直しの時期を迎えました。

さて、名古屋といえば、結婚式がとても豪華だと聞きます。名古屋城の天守閣には金の鯨鯢が輝き、秀吉は金ピカ好きのイメージがありますが、意外にも市民の金銭感覚は堅実だそうです。



▲名古屋城をバックにした加藤さん

●はい、はい、お披露目ですね。花嫁さんは自宅で文金高島田に髪を結い打掛けを着付けてもらって、特別仕様のハイヤー（天井高、観音開きのドア）に乗り込みます。出る時に屋根上からお菓子を撒く家もあります。そして嫁入り道具・家具も昔はゆたん（家紋付きの大風呂敷）で覆ったものですが、今はガラス張りのトラックでお披露目しながら続きます。隣近所の人たちはそれを見ながらお支度について噂し合ったりするの。最近は簡素化しているかもしれませんが、私の時代はそれが一般的でしたよ。

見栄っ張り、派手好きに思われるかもしれませんが、尾張藩は「勤儉貯蓄」を奨励した歴史がありますから、実利性に富んで、保守的な性分が培われているのではないのでしょうか。市場では「一安二量三味」が当たり前で、安いのは悪い意味ではなく良いこととされ、量はたっぷり、味良しです。企業はコストダウンして利益につなげるのが基本思想で、無借金主義だから危機知らず。親は子どもの教育に関して、資格取得を奨励して手堅い人生設計を歩むように導いていると思います。

★愛知県はトヨタ、ノリタケと世界に名の知れた日本の産業をリードしてきたモノ作りの地。江戸時代からくり人形から始まった機械産業が自動車、ロボット産業へと発展して来たのですね。

●名古屋は東京、大阪に次ぐ3大経済圏のひとつ、愛知県人の3分の1がひしめく大都会です。私は幼稚園の頃東京に一時住んだことがありましたが、小・中と岡崎で過ごし、高校時代から名古屋暮らしでした。東京には平成8年から住んでいます。比べてみると、東京と大阪の狭間にありながら、名古屋には東海道メガロポリスの中心から「天下をとる」という勢いが感じられ、東京とは違った企業と労働者のパワーが溢れているように思います。

近年「お値段以上」のキャッチコピーがしばしば聞かれますよね。コメダ珈琲店が東京に進出して、山盛りモーニングセットの看板があちこちで目に止まりますが、そもそもモーニングセットは随分昔に名古屋から広がったものです。名古屋は「お値段以上」の安くて良いものがたくさんあり、「名古屋めし」と総称される、八丁味噌ベースの濃くてこってりした、ボリュームある食の文化が発展しています。そして大都市の割に気張らないノンビリした抜け感があります。仕事と遊びの距離が近くて「暮らすように遊べる、遊ぶように暮らせる」名古屋はそういうところですよ。



▲坂角のえびせんべい名古屋限定の金ピカデザイン

コロナ禍で巷に蔓延する閉塞感を払拭するような、元気をもらえるお話でした。経済再生は名古屋から！既に使い古されている言葉「グローバル化」を先駆けて実践してきた日本を代表する企業・産業を擁する都市のプライドを代弁してくださっているように思えました。

（聞き手 高山編集委員）

11回目雑巾寄贈式！

2月14日武蔵野市役所にて、当センターから市立小学校へ雑巾が寄贈されました。地域への貢献を目的に平成23年度より雑巾寄贈活動をはじめ、今回で11回目を迎えます。会員の手作りのものや、会員から寄付されたタオルを手芸小物班が雑巾に仕立て、本年は合わせて1,200枚を学校を代表する教育委員会教育長へ手渡しました。

小学校へ寄贈された雑巾は主に工作の授業や、習字の授業の筆洗いに利用しているとのことで、今回は千川小学校6年生の児童達から「ありがとう！」との可愛い寄せ書きも届いております。



交流会

毎月第1水曜日 10:00 ~
開催している交流会検討会
では、コロナ感染症拡大
防止対策の為、新たな交流会
の計画は休止しています。



再開の折には
皆さまご参加を
お待ちしております。



編集後記

昨年末から年始にかけて新型コロナの感染が落ち着いていましたが、年始明けから急速に第6波のオミクロン株が猛威を振るい始めました。再び飲食店や小売業の方々を新型コロナが直撃したことに対して、武蔵野市では2月1日から3月31日まで利用できる「くらし地域応援券」を市民に配布しました。筆者も普段少し躊躇する生活用品を購入することができました。菓子、書籍、CD、植栽など少しでも武蔵野市の小売業の皆様の一助になればと思い購入しました。この取り組みは市内の飲食店や小売業にとっても良い支援策ですが、早く新型コロナが封じ込められることを切に願うばかりです。(ME)